

テレホン法話

羽島市 第5組 正壽寺 尾畑香織

私の寺では、寺カフェ形式の聞法会を月に一度開催しています。

ご門徒の方に限らずどなたでも、まずは気軽にお寺に足を運んでいただき、楽しくおしゃべりしながら共に食事をしたり、お菓子やコーヒーをいただきながら身近な話題を通して、少しずつ親鸞聖人のおしえに触れていただいています。皆さんと仏さまの話をする中で、私も新しく気づくことがたくさんありますし、親鸞聖人が伝えてくださった仏さまのおしえを少しでも多くの方に聞いていただきたいと思うのです。

私自身、お寺に嫁ぐ前は一般家庭に育ち、仏事の経験も仏教の知識もほとんどありませんでしたので、生活の中で仏教の必要性を感じる事がなく、なぜ仏事を大切にしていかなければならないのか、あまりわかりませんでした。しかし結婚後に住職がわかりやすく説明してくれたり聞法を勧めてくれたおかげで、だんだんと南無阿弥陀仏のありがたさを強く感じるようになり、現代社会を生き抜く多くの方々に聞法していただき、その大切なはたらきを感じていただきたいと思うようになりました。

一般常識とは異なる感覚や他宗派と異なり戒律を守ったり修行をしなくても、すべての人が救われているというおしえに初めは戸惑いましたが、聞法を重ねるごとに自分の知らなかった世界が広がり、さまざまな状況を生きるすべての人の拠り所となりうるおしえであるとうなづかされます。

また自分がどれほど自分中心にものごとを見ていて、立場を変えるとまったく異なる世界が見えてくることや、自分の価値観で善悪や好き嫌いを判別することが、さらなく苦しみを作り出してしまうことなどをおしえられます。

私のまわりの南無阿弥陀仏を大切に生きる人は、温かく柔らかいもの見方で、どんな困難が湧いてきても力強く乗り越えていかれます。二年前に亡くなった私の義理の母は、いつも「お寺ほどいい仕事はない」と歎びと誇りをもって法務に従事し、倒れる寸前まで月命日のお参りの仕事をしていました。いつも明るく前向きだった義理の母は、南無阿弥陀仏を大切に、苦勞の多い人生だったにも関わらず、「私ほどしあわせなものはいない」と最後までお念仏を称えながら穏やかな死を迎えました。その姿が私にお念仏のはたらきを実感させ、私自身も南無阿弥陀仏を大切に、一日一日精一杯悔いのない人生を歩いていくことが願われているのだと感じさせてくれています。

以上